

2019年10月15日

報道関係各位

中部学院大学
中部学院大学短期大学部

11月11日の「介護の日」に向けて 介護を学ぶ学生が岐阜市内の介護家庭を訪問して交流 各務原市では学生がバラの花を贈る啓発活動を展開

中部学院大学（学長 古田 善伯）ならびに中部学院大学短期大学部（学長 片桐 多恵子）は毎年、介護福祉士などを目指して介護を学ぶ学生が、11月11日の「介護の日」に向けて、身の回りで介護をしている方に感謝の言葉を添えて、バラの花を贈る活動をしています。また、(株)トーカイや OKB 大垣共立銀行などの企業とも連携を深め、啓発活動を展開します。

このキャンペーンは学生を中心として2008年から毎年行っており、12年目を迎えます。今年も岐阜県福祉・介護人材確保対策助成事業の助成を受けて行います。

11月3日は、各務原市の学びの森などで開催される「学びの森フェスティバル」の会場で、バラの花を贈る運動をはじめ、学生による介護の日の啓発活動（下記参照）を行う予定にしています。また、高齢者の笑顔をテーマに、本学が介護現場や高校生に呼びかけて開催した「笑顔・写真コンテスト」の写真展示なども行います。また、11月8日と11日には、岐阜市内で在宅介護をしている家庭をヘルパーと共に訪問し、バラの花を贈ったり、介護の現状を聴いたりします。

記

【介護の日】

国が2008年から毎年11月11日を「介護の日」と決めました。「いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう」がキャッチフレーズ。介護について理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者および介護家族を支援するとともに、介護を取り巻く地域社会を支え合い、交流の促進を目指します。

■ 日時・場所

2019年11月3日（日）午前11時～午後1時	各務原市・学びの森ほか
2019年11月8日（金）ならびに11月11日（月）	岐阜市内の家庭

■ 参加者

- 3日 中部学院大学短期大学部社会福祉学科1年生、教職員 約80名
8日/11日 中部学院大学人間福祉学部介護支援コース2年生、教職員 約20名

■ 活動内容

(各務原市)

- ・バラの花の贈呈
- ・横断幕とのぼりを使った啓発
- ・募金活動 ※寄付金は、介護者に贈るバラの購入代などにあてます。

(岐阜市)

- ・ヘルパーと共に岐阜市内の家庭（計9カ所）を訪問
- ・介護者にバラの花を贈呈
- ・介護者、ヘルパーらに在宅介護についてヒアリング

- 企画 中部学院「介護の日」普及委員会
■ 主催 中部学院大学、中部学院大学短期大学部
■ 後援 岐阜県、岐阜県社会福祉協議会
■ 協力 (株)トーカイ OKB大垣共立銀行、岐阜市社会福祉協議会

【経緯】

中部学院大学・同短期大学部では、介護の日に、身の回りで「介護」をしている方に感謝の言葉を添えて、バラの花を贈る運動を提唱しています。介護をしているご家族、介護施設などでお世話になっている介護職の方など、日ごろから介護に頑張っていっしょの方々に、バラの花とともに感謝の言葉とエールを送りたいと思います。「母の日」や「バレンタインデー」のように、「介護の日」が人々の間に浸透していくことを願うとともに、介護の日を通じて、家族や社会の絆を深め、優しい社会を築くきっかけになってほしいと考えています。

【(株)トーカイ・OKB大垣共立銀行との連携】

中部学院大学ならびに同短期大学部は2017年2月、株式会社トーカイ、OKB大垣共立銀行と「福祉・医療・教育分野の発展に向けた連携協力に関する協定」を締結しました。協定では相互に協力することで、福祉・医療・教育分野を通じた産学金連携活動を推進し、地域社会の発展に寄与することを目的としています。

以上

(本件に関するお問い合わせ先)

中部学院大学 地域・産学連携課 (担当: 浅野)

TEL:0575-46-7158 (関キャンパス)